

「わくわく算数教室」 3日目

8月23日（金）、「わくわく算数教室」3日目です。今日の午前の部は、前半の日程の中で参加児童が最も多く、児童約50人、SPさん約20人、計70人ほどがなかよし音楽広場に集まりました。70人近くも人がいると、活気と熱気がすごい！「おはようございます」の挨拶も響き渡っていました。暑い中、歩いてやって来た子どもたちは少しお疲れ気味？のようでしたが、SPさんはさすがでした。出迎えや受付をしてくれていたSPさんは特に汗だくでしたが、笑顔で颯爽と各々の机に向かってくれて、ヒーローのようでした。



今日も笑顔がたくさん！子どもたちの「聞いて欲しい」「見て欲しい」に丁寧に応えてくれるSPさん。子どもたちは気持ちが満たされると、自然と勉強に気持ちが向いていきます。参加人数が多いので当然騒がしくなるのですが、よく聞いているとSPさんや友達と算数について真剣に話し合っている声がたくさん。友達と、SPさんと、一緒に勉強できるこの空気感の方が集中できる子、やる気が出る子もたくさん見られました。静かな所の方が勉強に集中できそうな気もしますが、子どもによってはある程度音がある環境の方が集中できる子もいます。（大人でも、音楽をかけたり、喫茶店などのお店で勉強したりする方が集中できるという人もいますよね……。）この空気感が好きで、わく算にリピート参加してくる子も多い気がします。SPさんの作ってくれている安心・安全（＝叱られない）で楽しい雰囲気この場所だから、というのも児童の参加率が高い一つの要因に思います。





わく算には、毎年シニアSP（卒業生）も駆けつけてくれます。今日は、昨年度まで片葩小でウィークリーSPをしていた、教員1年目のシニアが来てくれました。もちろん、わく算にも参加していました。大学を卒業してからまだ半年経っていないくらいですが、やはり現場に出るとまとう空気や子どもとの関わり方がグッと変わります。会場に入ると一番に子どもたちに声をかけに行き、勉強する前から子どもと関係作りをしていました。

算数教室終了後には、現役SPさんに向けて話をしてくれました。大学では決して習うことのない、教育実習でも見ることができない、教育現場の現実を、実例を交えながらたっぷり話してくれました。そして最後にこんな話をしてくれました。

「いろいろなバックグラウンドを持つ子がたくさんいます。そういう子たちにどうするかというと、一つは、今日みなさんがやってくれた、一人一人を見ること、個別指導をすることだと思います。それができれば、今後そういった子たちは救われていくのではないかと思います。中村先生から“教育の原点は1対1。1つのクラスが30人だとして、1対30ではなく1対1の指導方法が30通りある。必ずしも集団で1通りではない。”と学生時代に教わりました。今回のわく算の経験は、みなさんが教壇に立った時も、また教壇に立っていない時にも必ず力になっていくと思います。頑張ってください。」

頼もしい、素敵な先輩になっていました。来週は他のシニアSPも来てくれる予定です。台風が少し心配ですが、シニアSPが来たらぜひいろんな話をしてみてくださいね。